

整理番号	23-13	事務事業名	(救急医療事業) 救急医療啓発普及	作成部署	保健福祉部健康管理課	電話	内線807	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	上村弘志	課長職名	細川和夫	作成日	平成16年6月
事務事業開始年度		根拠法令等	「救急の日」及び「救急医療週間」啓発普及事業実施要領					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	救急医療知識の普及、救急医療に関する研修会、救急の日の記念講演会開催							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第1章)
	節	健康と医療	(第1節)
	施策	医療体制の充実	(第3施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	市民	
	意図(何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか)	市民の健康保持のため、急病在宅当番医(内科・外科)制度、急病医療についての理解と受診等について啓発	
手段(ここから活動指標を導きます)	16年度まで	在宅当番医(内科・外科)制度、救急医療(夜間急病センター)についての啓発と救急医療記念講演会等の開催を委託	
	17年度	同上	

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

	区 分	15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金	2,234			
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	1,117	2,559	2,397	2,397
	合 計	3,351	2,559	2,397	2,397
人件費(概算)	人数(年間)	0.02	0.02	0.02	0.02
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	180	180	180	180
総事業費 +		3,531	2,739	2,577	2,577

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(見込)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	救急医療研修会(医師)回数	5回	5回	5回	5回
	参加医師数	100人	100人	100人	100人
	記念講演会開催回数(40歳以上)	1回	1回	1回	1回
	記念講演会事業費(単位:千円)	1,307	1,340	1,391	1,391
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	記念講演会参加者数(40歳以上)	320人	300人	300人	300人
効率指標 (主要活動単当たりコスト)	参加者1人当たり経費	4,085円/人	4,467円/人	4,637円/人	4,637円/人
	(講演会事業費÷参加者数)				

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等

救急医療の現状と急病治療の実態及び救急医療の受診についての啓発等を委託し、救急医療体制の充実を図ることが必要である。

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	在宅当番医制度及び急病医療についての理解度を高めるためにも必要な事業として、市が実施すべきである。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	住民の健康保持ための健康教育、救急医療等についての意識を高めるためにも必要な事業である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。他の手段や委託化などの可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	救急医療の専門分野の知識を必要とし、さらに在宅当番の緊急性を考えると、医師会に委託するのは適切である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	救急医療の専門分野の知識等についての啓発であり現行では適正と考えており、受益者負担に該当しない。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	講演会、機関紙等により救急医療の現状について、住民の方に周知しており、概ね成果は上がっている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率的 かなり非効率的	講演会については、救急の日にあわせ事業を効率的に実施している。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	救急医療についての現状を知るための啓発・研修又、急病患者への情報サービスを継続し実施する。 なお、講演会の事業内容と経費については、見直しへ向け検討する。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり